



ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当

上越市 総合政策部 総合政策課 ふるさと応援室

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-520-5625

ホームページ▶

ふるさと上越



青田川 2024.4.11 撮影：小坂恵美さん

「たより」No.296 目次

ふるさと上越ネットワーク（Jネット）ホームページでは、「たより」を全ページフルカラーでご覧いただけます。

会員数と「ふるさと市場」販売報告 ……………1	上越タイムス・上越ケーブルビジョン……………6
Jネットの活動とお知らせ……………2	アクセス方法のご案内
東京サロン・春の交流会開催報告	瀧川鯉橋師匠 高座予定……………6
令和6年度定時総会懇親会	上越産品のお知らせ……………6
俳句ひろば……………4	会員ひろば……………7
俳句の賞をいただいて 上野邦治	スーパーシニア音楽団「樂悠」定期演奏会 土田正栄
新刊本のご案内……………5	同窓会・郷友会コーナー……………7
「絹の糸」 佐藤光子著	東京浦川原会 / 東京牧村会
いにしえ上越……………5	上越市からのお知らせ……………8
土蔵のまち・直江津の秘密に迫る 磯田一裕	令和6年度観桜会スナップ……………8
	Jネットからのお知らせとお願い……………8

会員数と「ふるさと市場」販売報告

(1) 会員は559名(令和6年4月1日現在、集計方法を前回から変更しています)令和5年度目標610名。(旧集計方法)

(2) 「ふるさと市場」の販売取次状況(令和5年3月) 66点 158,992円 ※前年同月 130点 221,766円

◆ 3月14日(木)湯島にてサロン開催

3月14日Jネットサロンに初めて顔をだした。到着すると上越の土地や産物の名称が飛び交う会話がいきなり耳に届いた。約30名の元若者が日本酒を手に篤く語るが、平均年齢はどのくらいなのか。独特の高田弁のイントネーションが弱まっているのが、関東に馴染んだ年数を感じさせた。かく言う我が輩も高校を卒業して54年の年月を経ていた。



3/14ご参加のみなさん

多くの方々と懇談し、皆さんのふる里を思う心の源泉は何なのだろうか、またふる里とは何なのだろうか、と思った。この回答の糸口はわずかではあるが、懇談が与えてくれた。

我が輩個人の半世紀は無機質な研究に暮れ、ひたすらふる里を忘れ関東人・グローバルISTになろうとしてきたようだ。しかし、これまで高田出身の学生が卒業後に故郷に帰るといふ弁の中には「雪が解け春になる景色の変化が関東では味わえない」と大いに語っていたことを思い出した。雪あるいは雪景色がヒントなのだろうか。

サロン終了後、なんと14名が二次会に集まり、上越の話が延々と続いた。心地よい会話であった。そして我々の思いがふる里の発展に何か役立っているだろうかと自問した。発展には展望と財力が不可欠だが、展望になら老生の思いも微力ながら役に立つだろう。そんな思いに駆られて帰宅の途についた。

まだサロンに参加されていない方は、ぜひ御徒町のサロンに顔を出してみませんか。(中里一久 記)

参加者は30名、2月を上回る人数でした。初参加は吉越さん、大島さん、中里さんの3名。また女性陣も9名と倍増でした。差し入れは次の方から頂きました、有り難うございます。野田さんと浜野からハム/ソーセージ(わさび菜添え)、稲場さんから雪中梅、吉越さん、小坂からワインでした。(事務局)

◆ 4月11日(木)湯島にてサロン開催

4月11日、定例のサロンが開催。毎月第二木曜日、25名から30名程の方が参加されて賑わいます。が、今回は上越での交流会の直後だったこと、また体調不良の方も多かったそうで18名の参加でした。

昭和4年生まれ最長老 山崎さんの挨拶のあと、いつもの通り郷土の日本酒で乾杯し盛り上がりしました。

私としては、直江津高校同期卒業の平山さんとお会い出来たのが大変嬉しかったです。このような出会いもあります。

皆様、次回ぜひ参加頂きたくお願いします。

(高橋秀夫 記)



4/11ご参加のみなさん

今回サロンでの日本酒差し入れは、松本さんから「かたふね彩生」、小坂から「吟田川」でした。有り難うございました。(事務局)

【次回以降のサロン】 毎月第2木曜日開催 参加費1,500円(予約不要・途中からのご参加もOKです。)

◆ 5月9日(木) ◆ 6月13日(木) 開催時間17:30~19:00

会場:東京新潟県人会館「ふれあいふるさと館」〒110-0005 東京都台東区上野1-13-6 TEL:03-3832-7619
お問合せやご参加は、事務局(宮里) Mail:k.miyazato@araipt.co.jp TEL:03-5244-5138までお願いします。

東京新潟県人会館アクセス(電車)

- 東京メトロ千代田線「湯島駅」6番出口から徒歩1分 ●東京メトロ銀座線「上野広小路駅」4番出口から徒歩5分
- 都営地下鉄大江戸線「上野御徒町駅」A4番出口から徒歩5分 ●JR山手線・京浜東北線「御徒町駅」南口から徒歩6分

◆ 春の交流会報告

4月7、8日、上越で春の交流会を開催しました。両日ともに好天、何よりも桜満開になり、昨年に続いてどんぴしゃり、幸運にも恵まれました。

7日(日)は高田城址公園近くの食堂なかしまで交流会。市内からは日ごろお世話になっている方々23名の参加、市外からは大阪、静岡、新潟市からの参加を含む15名、総勢38名で親睦を深めました。

はじめに中川幹太市長からのご挨拶では、市の組織改編、在京上越事務所の設置計画などJネットに直結するお話を頂きました。次に佐久間昇二顧問(初代会長)は当会設立時の経緯、歴代会長の功績を紹介下さり乾杯に。その後は着席形式でしたが多くの方が席を移動して歓談するなど、たいへん賑やか、和やかな懇親会となりました。

翌8日(月)は午前中に城址公園観桜、2001年にJネットで植樹した桜も満開でした。お昼は宇喜世での交流会。23名が参加し全員一言スピーチ、此方でも楽しく歓談、最後に宮越紀祢子さん(お馬出しプロジェクト代表)の音頭で高田花見小唄を合唱、「ねえおまん〜そーだねかね」のくだりは大合唱に。宇喜世のあとは、三和の林富永邸を観光、其処で発酵スイーツを頂いて交流会を終了、皆さん大満足で帰路につきました。



4/7 市長さんを囲んで(食堂なかしま)



市長さんよりご挨拶(食堂なかしま)



宇喜世



ふるさとを懐かしく語る(宇喜世)

◆ 令和6年度定時総会・講演会・懇親会のお知らせ

下記にて開催いたします。

(同封のご案内も併せてご覧ください。)

出席者は60名として、総会・講演・懇親会は同じ会場で着席(円卓)にて実施します。

会 場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)

日 時：5月25日(土)

総 会：15:00 - 16:00

講 演：16:00 - 16:45

演 題：【天文よもやま話】「私たちの銀河系は爆発したか！」

講師：祖父江義明氏(東京大学名誉教授)

懇親会：～18:00 参加費：6,000円。

同封葉書などで 事務局(宮里)k.miyazato@araip.co.jp TEL：03-5244-5138までご連絡ください。



林富永邸(現三和区神田)

◆ 俳句の賞をいただいて

上野邦治

79歳という年齢で賞状なる物をいただきました。生きているといいことがあるものですね。一緒に喜んでください。

「春耕」という全国的な俳句結社の「令和5年春耕賞」（年間最高賞）をいただきました。嬉しくて飛び上がってしまいました。

俳句を始めたのが、68歳。ボケ防止ではじめた老いの手習いでしたが・・・

俳句を勧めてくれた上越に住む高校の同級生吉村直彦君、広瀬昭雄君のおかげです。「上越若葉会」に月一回の遠距離投句を始めたのがきっかけでした。上越タイムズに月例句会の句が掲載されると励みになりました。新潟日報俳壇の常連の岩関順雄先輩にも手紙で添削指導していただきました。それからもう11年です。東京では「春耕」という俳句結社に入会しました。俳号は旧姓の直江からとりました。直江兼続を敬ってのこともあります。名前なので女性俳人と思われることも度々です。

受賞作の「雪国早春賦」は、雪が解け暖かくなった早春の喜びの詩情を20句にしてまとめて応募したものです。母校高田高校の祝賀式典の標語は、「雪国を捨てず雪解けある限り」（饒村先生）になったそうですね。この気持ちは、雪国に住む人たちの共通の思いでしょうね。最高賞に選んでくれた選者の皆さんから「越後の人たちの春を迎えた喜びが自然描写の中に情趣あふれて伝わってくる」との言葉をいただきました。

直江津で育ち、新井に引っ越し、高田高校へ通ったころの詩情が、ふつふつと蘇ってきて句になりました。Jネットの皆さんと受賞の喜びを分かち合えればこんな嬉しいことはありません。皆さんに読んでいただいて、共感を得ていただければ幸いです。

※春耕俳句会は、関東、多摩地区だけでも46ヶ所、全国で58ヶ所を数える大きな俳句会です。上野邦治さん、年間最高賞受賞、おめでとうございます。



令和五年（第36回）春耕賞 作品 二十句

『雪国早春賦』 上野直江

替女越えし峠の高み鳥雲に

谷風にゆられあふられ飛花落花

飼ひ葉桶ぶつころがせり春一番

蒼天の棚田をちこち花菜の黄

風垣を解くや潮の香波の音

そよ風にかたかごの花リズムとる

底深く抉る音立て雪解川

穂の芽のきこと音たて摘まれけり

流水の寄せたる岸边下萌ゆる

枝移りしつつ囀近づけり

薄氷の裂けてふためく群雀

乗つ込みの鮒巻上ぐる泥しぶき

雪根開き粟鼠逆しまに幹下る

魚止めの滝壺探し山女魚群る

ひだまりの土手にほつこり露の臺

甲高に鳴いて雉の遠ざかる

鶏放つやつと乾びし春の土

いななきを風が果てまで牧開く

深梅行修験の岩の近くまで

つばくらめ雁木の街に巢を並ぶ

◆ 佐藤光子会員、「絹の糸」を上梓。

佐藤さんは才人である。詩から始まり、小説、俳句、エッセイ、そのうえ、コーラスにも及ぶ。小説は数冊出版、受賞も幾多あり、俳句でもエッセイでも芸苑での評価は高い。ちなみに、当会会員I氏は新潟日報俳壇入賞の常連だが、俳句の手ほどきは佐藤さんから受けたそうである。

その佐藤さんが、このほど、「絹の糸」を上梓した。エッセイ仕立ての文章はやさしいが、内容は濃くて奥深い。

前編「生きてきて」は、佐藤さんの来し方だ。様々な場面で多くの人と知り合い、交流を深めていく有様が生き活きとつづられている。とくに、多感な高校時代に詩人高野喜久雄氏に出会い、詩に目覚めていく有様は、その情景が見えるようだ。東京に出てからは、中学教員の傍ら、婦人雑誌の懸賞小説に入選、文芸界との交遊も広がる。そして親しい人達との別れ。行間に、人の優しさがあふれている。

後編「絹の糸・不思議なえにし」では、高田の実家・渡部家のルーツ探しが、長年音信のみの呉の分家にあった文書を頼りに始まる。郷土史家植木宏氏の助けも得て、渡部家元祖は広島藩士であり、榊原藩の下、関川・柳堤の堤守という役職にあったことを知る。そして呉の分家との再会。絹の糸は時空を超えて繋がっていた。手紙のやり取りが中心だが、臨場感が伝わる。

「私の人生は善い人との出会いの連続だった気がする」し、「書くことは思い出すことにもなり、それが感謝することになる」との言葉が光る。激変と不安に満ちた時代にあつて、人との交流が心を温めてくれるという本書は貴重である。「絹の糸」佐藤光子著：令和6年5月 文芸社発行 定価(本体1400円+税)



いにしえ上越

◆ 土蔵のまち・直江津の秘密に迫る

上越の歴史的建造物と景観を守る会 代表 磯田一裕
(地域住環境建築研究所 主宰)

今日は直江津の土蔵についてお話しさせていただきます。

直江津では記録上もっとも古い明治4年の「やきもち火事」から昭和6年の「新町火事」までの間に23回もの大火があり、1000戸以上を焼き尽くす火災が幾度となく街を襲いました。一時は火災保険料率が日本一高かったことや、明治40年には大火予防のために直江津警察署長が「屋上制限令」を出し、町民の「署長を殺せ！」という声がある中、強制的に木端葺きの屋根を瓦かトタンに葺替えさせた結果、明治41年から昭和6年までの23年間無火災の記録が作られたことを見ても、直江津の人々が長年火事と闘ってきたことがわかります。

注意してまちを散策するとそれらを物語る歴史的遺産が見えてきて、その代表例が土蔵造りの寺院や蔵を有する直江津町家、そしてまちのあちこちに点在するレンガ造りの防火壁です。土蔵の街として川越や佐原などの土蔵造りの商家が軒を連ねる歴史的街並みが全国的には有名ですが、直江津も実は隠れた蔵のまちなのです。

直江津町家の多くは高田に比べて敷地の奥行きが1/2~1/3と短く、主屋の裏に独立した外蔵を持つ余裕がなく、最小限の家財や仏壇を守るための内蔵（座敷蔵）として独自発展した蔵形式であり、富の象徴としての豪華なつくりの蔵ではなく、まさに火事との闘いの中で生まれた生活のための蔵なのです。

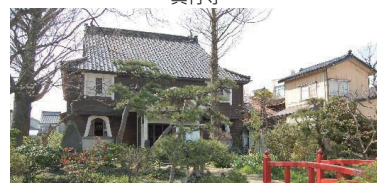
さらには直江津特有の季節風から土蔵を守るため「雨屋」で覆われておりその所在が分かりにくく、また生活空間の一部としての蔵ゆえに観光資源としての活用には不向きと言わざるを得ません。しかし真行寺、観音寺をはじめとする土蔵造りのお寺が直江津の小さな町中に6カ寺も残っていることは全国的に見ても珍しく、先人が直江津のアイデンティティとして残してきた貴重な歴史的遺産です。

令和6年能登半島地震では上越市でも震度5強の強い揺れに見舞われ、1,500棟を超える建物被害があり、特に土蔵や土塗壁（しっくい壁）の損壊が数多く見られています。その貴重な地域のお宝である歴史的建造物を何とか守っていきたく、「上越の歴史的建造物と景観を守る会」を設立し文化財レスキュー活動をおこなっており、Jネット会員の皆様からもご協力賜れば幸いと存じます。

(歴史的建造物の保存と活用に関する調査報告書より一部引用)



真行寺



観音寺

◆ ふるさと上越ネットワークのホームページをご覧ください

上越市の四季の写真他、掲載は多様です。ぜひとも、「ふるさと上越ネットワーク」を検索し、ご覧ください。スマートフォンからは、右のQRコードからご覧いただけます



◆ 上越タイムス電子版、上越ケーブルビジョンへのアクセス方法(会員のみ)

- ① HP右肩「Jネット会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックし各社のHPへ
- ③ 下記のメールアドレス・パスワードにてログインしてください。



瀧川鯉橋師匠 高座予定 鯉橋：090-4730-9032 rik_yoh_taki@taupe.plala.or.jp (鯉橋メール)

◇5/6(月)～9(木)上野広小路亭・昼の部

時 間：正午～4時半
※鯉橋は午後3時ごろの出演
木戸銭：1,500円
主 任：伝枝 ほかに楽輔、小痴楽など出演。
お問合せ：03-3833-1789(広小路亭)

◇5/12(日)鯉橋の落語でひとやすみ

時 間：午後4時～5時半
木戸銭：1,500円
出 演：鯉橋(2席)、アマチュア前座さんの出演あり
会 場：喫茶「ひとやすみポン」(板橋区若木、環八沿い)
お問合せ：080-5544-9241(オビ)

◇5/18(土)腰越・津落語会

時 間：午後2時～4時
木戸銭：1,500円(小中高生500円)
出 演：昇乃進、鯉橋(2席づつ)
会 場：宝善院(鎌倉市腰越5丁目)

◇5/19(日)梶原いろは亭「なかよしおじさんズ」

時 間：午後1時～3時ごろ 木戸銭：2,500円
出 演：鯉橋、小助六、夢丸
会 場：梶原いろは亭(北区上中里3-1-4)
お問合せ：03-6322-1622(いろは亭)

◇5/23(木)「七人の侍～流浪の落語勉強会～」

時 間：午後1時～3時半ごろ 木戸銭：1,500円
出 演：鯉朝、枝太郎、楽生、鳳志、鯉橋、藍馬
会 場：お江戸両国亭(両国4-30-4)

◇5/26(日)芸協らくごまつり(西新宿、芸能花伝舎にて)

時 間：午前10時～午後4時
鯉橋所属の落語芸術協会のファン感謝デー。
無料イベント多数、詳細はウェブ検索をお願いします。

☆ブログ『～七転び八起の末のホンダラダ～』
<https://blog.goo.ne.jp/rikyoh3194> もぜひご覧ください。
鯉橋拝

上越産品販売のお知らせ

● Jネットふるさと市場「取次販売商品一覧」

会員は送料無料で取り寄せができますので、どうぞご利用ください。
現行の各社パンフに加えて、取次販売商品一覧(A4版1枚)を同封にてお届けします。

● 上越特産市場 JCCソフト株式会社運営による、上越農林水産物・特産品のネットショッピングモール「上越特産市場」です。「上越特産市場」でネット検索いただき、お申込み下さい。

● 常設店舗「雪国商店」(有楽町駅から約3分)

場 所：有楽町交通会館1階
営業時間：11:00～19:00

年中無休(年末年始は休業)

★上越妙高の美味しいものを取り揃えて、皆さんのお越しをお待ちしています。

「雪国商店」または下記のURLよりご覧ください。

<https://yukiguni.shop/>

● 新潟・上越妙高「うまさ直送!雪国マルシェ」

日 時：5月25日(土)・26日(日)
6月15日(土)・16日(日)/29日(土)・30日(日)

会 場：有楽町交通会館1階 ピロティ

時 間：11:30～17:30

「雪国商店」&「雪国マルシェ」お問合せ先
JCVC東京情報センター TEL:03-5218-7730

会員ひろば

◆ ～陸上自衛隊・警視庁・東京消防庁音楽隊OBによる～ スーパーシニア音楽団「樂悠」第12回 定期演奏会 (入場無料)

2024年5月4日(土) 13時30分開場 14時00分開演

会員番号754番の土田正栄です。私が入団している吹奏楽団が演奏会を行います。ぜひご来場ください。

内容：第1部 世界の行進曲 エルガー/威風堂々 第1番 他
第2部 懐かしの日本のTV・映画音楽
ALWAYS三丁目の夕日～ハイライト～他

会場：ゆめぱれず（朝霞市民会館）朝霞市本町1-26-1
東武東上線朝霞駅南口下車徒歩約15分

交通：東武東上線朝霞駅南口下車、

右手方面の二本松通りを進み二つ目の信号機を右折
(交差点に緑色の小さな案内板があり) 事前に道を地図で確認してください。

市内循環バスわくわく号膝折溝沼線：朝霞駅南口（市民会館行き）

13時12分発→「市民会館」13時29分着もあるが循環バスのため少々時間がかかります。

※最高齢は90歳代、70代が主力のシニアバンドです。音楽をする喜びを求めて生涯現役・生涯学習を実践しつつ、高齢者であっても社会に一石を投ずべく、昨日より今日、今日より明日へと夢を追い求めていく、シニアマイスターの音楽団です。



同窓会・郷友会コーナー

◆ 第34回東京浦川原会総会

まだ桜の季節にほど遠く寒さがぶり返す中、暖かい日となった3月17日(日)東京浦川原総会が上野精養軒で開催されました。

毎年ふるさと旅行でお世話になっている浦川原から多勢の方がかけつけて下さり、また東京の郷人会の方々、議員さん、Jネットの会長さんが列席して下さいました。

会員、役員の高齢化、減少する会員をどうしたらと課題は多いのですが、とりあえず今日の日を楽しく過ごしていただくことを配りました。

イベントでは川原可奈さんのソプラノ歌唱。みな様に好評な演目です。石川さゆりさんの「越後警女」を聞いている演歌どっぷりの私には、高らかな歌声に清々しい気持ちがいたしました。

おいでいただいた方々にいきわたるよう田舎の物産で盛り上がり、テーブルいっぱいのご馳走と地酒で和やかに、そして精養軒名物のハヤシライスを味わいながら来年35周年を盛大に行えるよう改めて、気持ちを新たに活動していきたいと思っております。
(平山裕子 記)



◆ 東京牧村会 灯の回廊で故郷訪問

2月17日(土)夕刻から、私の出身地上越市牧区で「灯の回廊」が開催されました。東京牧村会から21名が参加し、牧区の皆さんとの交流・懇親の機会として楽しい時間を過ごしました。

牧っ子茶屋で雪花火見学(東京牧村会も協賛)、棚広茶屋で温かいお汁を頂き、深山茶屋では積上げられた巨大雪山で「灯」を見学、最後に深山荘で地元要職者の方々と交流・懇親会を開催。なお、視察にいらした中川幹太市長を出迎え、写真に入りました。灯の回廊は17日と24日に地区を替えて行われましたが、市からは合計6万本の口ウソクが提供されました。

翌日18日(日)は棚広新田の木ノ下家でそば打ち体験。牧区総合事務所米川所長、山岸前所長はじめ地区の皆さんのご協力のもと懇親会を開催、地元の自慢料理や出来立てのそばを頂き満腹。楽しいひと時となりました。

*計報 平成8年11月発足の東京牧村会設立にご尽力頂いた、中川耕平元村長が2月7日にご逝去されており、18日朝ご自宅に伺い感謝とお礼申し上げますと共にご冥福をお祈り申し上げます。

(東京牧村会会長 鈴木勉 記)



ふるさと村茶屋で中川幹太市長（前列右から2番目）
視察時参加の皆さんと集合写真



牧コミュニティプラザ（牧っ子茶屋）の雪上火火打上げ



深山茶屋の積上げた巨大雪山に
ロウソクの明かりで「灯」が浮かび上がっていた

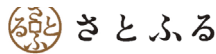
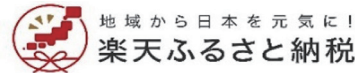
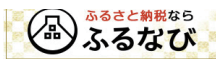
東京牧村会 故郷訪問スナッフ（令和6年2月17日～18日）

上越市からののお知らせ

◇ 上越市に「ふるさと納税」しませんか？ ◇

～ふるさと上越への応援をお願いします～

下記のポータルサイトに、上越市のお礼の品を掲載しています。

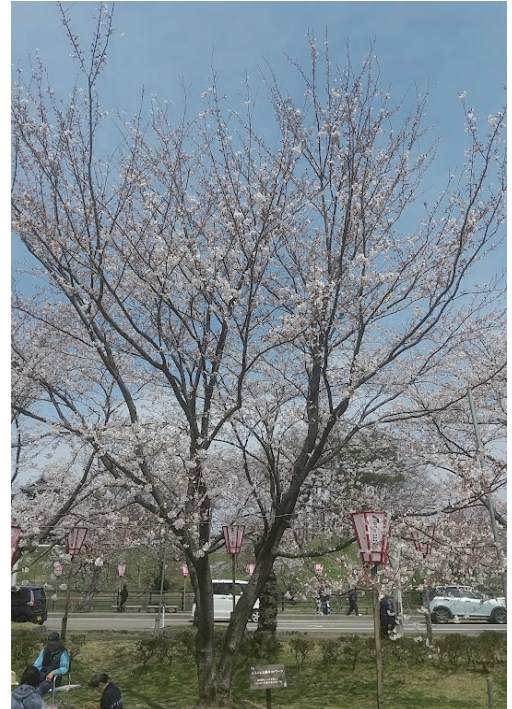


・右のQRコードからふるさと納税ポータルサイトの情報をご覧ください。



- ① 上越市への来訪機会を創出するもの
 - ・市内飲食店食事券（料亭、ワイナリー、寿司店など）
 - ・市内宿泊施設利用券（温泉宿、ゲストハウスなど）
 - ・体験サービス（施設貸し切り、市内観光プラン、観光列車乗車券、墓参り、掃除、草刈り、新聞定期購読など）
 - ② 食料品米、餅、味噌、菓子、野菜、果物、肉、その他食品、さかきん発酵鍋等 酒類（日本酒、ワインなど）、お茶、その他飲料品など
 - ③ その他 工業製品、雑貨など
- ※紙カタログのご用意もあります。
照会先：総合政策課ふるさと応援室（TEL：025-520-5625）

Jネット春の交流会スナッフ 高田城址公園（令和6年4月8日）



2001年Jネット植樹の桜



内堀にて

●●●●● Jネットからののお知らせとお願い ●●●●●

皆様よりの寄稿、投句をお待ちしています。

さらに、たよりについての感想、記事や俳句の感想をお寄せ頂ければ、寄稿や投句された会員の励みになります。こちらもお待ちしております。

Mail 送信先 事務局：k.miyazato@araipt.co.jp

◎次号「たより」は令和6年6月10日の発行です。